

八瀬川多自然川づくり基本計画

全体の整備方針

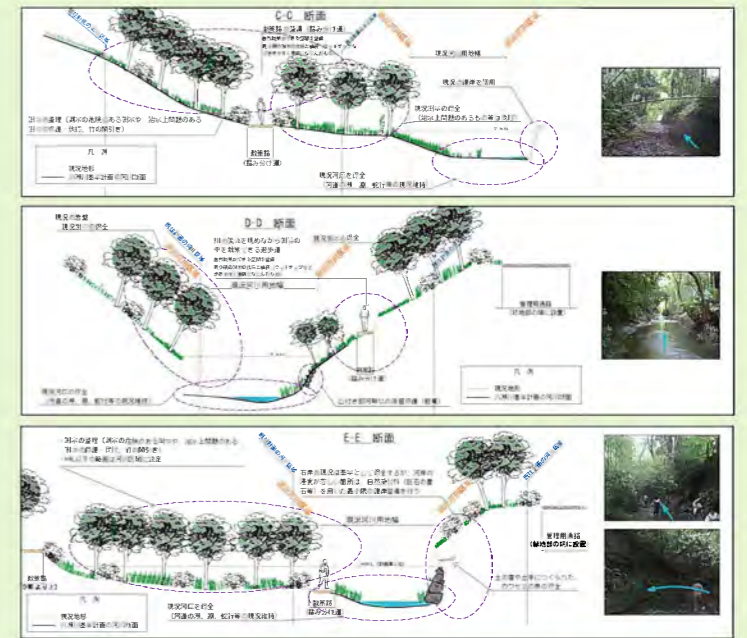
- 水田や住宅地、渓谷、崖線など様々な顔をもち、変化に富んでいる八瀬川らしさを活かした川づくり
- 豊かな自然を保全し、活用する川づくり
- 相模川との連続性を活かし、縦横の水域ネットワークに配慮した川づくり

渓谷ゾーン

【整備方針】
●自然景観の保全により、市民が楽しむ渓谷ゾーン

- 【整備イメージ】
- ・隣接する斜面樹林の保全に配慮する。
 - ・浸食が進んでいる箇所は、置き石や捨て石などにより保護する。
 - ・HWL以下の範囲及び散策路等、管理に必要な区域を河川区域に設定し、現況河道を保全する。
 - ・樹木を適切に整理・管理する。（倒木の危険のある樹木、治水上問題のある樹木の伐採、竹の間引き）
 - ・散策路（踏み分け道程度）の設置により、自然散策が楽しめる空間を整備する。（防犯面に配慮する）
 - ・管理用通路は、緑地端部（外側）に整備する。

- 【課題】
- ・まちづくり計画と、斜面樹林の保全、管理用通路の配置について調整が必要がある。
 - ・全体計画認可時と河川区域の設定を変更する必要がある。
 - ・踏み分け道ができることによる防犯面への対応が必要となる。

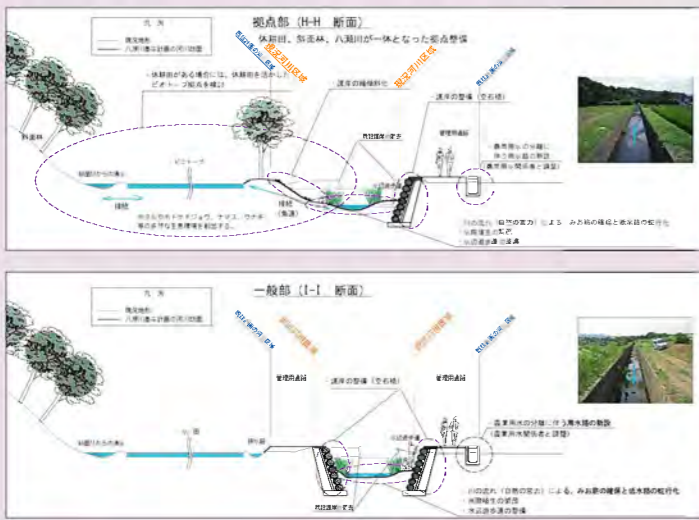


田園ゾーン

【整備方針】
●斜面林と田んぼの原風景が懐かしい田園ゾーン

- 【整備イメージ】
- ・河道拡幅によるみお筋と水際植生を確保する。
 - ・水田や湧水群との水域ネットワークを確保する。
 - ・休耕田を活かしたビオトープ拠点を検討する。
 - ・水辺遊歩道を整備する。
 - ・水辺に近づく施設整備を行う。（階段・スロープ）
 - ・取水堰の統廃合と農業用水の分離を検討する。（農業関係者と調整）

- 【課題】
- ・新技術基準に則して、余裕高、HWLの設定を検討する必要がある。
 - ・農業用取水堰の統廃合について農業関係者との調整を図る必要がある。
 - ・休耕田の活用、斜面林の保全策について、関係機関との調整が必要。

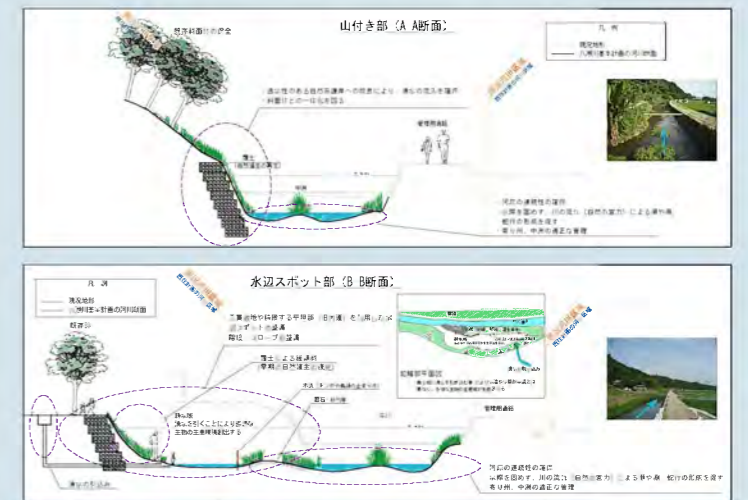


崖線ゾーン

【整備方針】
●斜面林と水辺が連続する崖線ゾーン

- 【整備イメージ】
- ・流下断面の確保するため、新八瀬川橋下の護床工の撤去を検討し、堆積土砂の掘削を行う。
 - ・水際を固めず、水の流れ（自然の営力）により、瀬や淵、蛇行のある自然な河川の形成を促すとともに、寄り州・中州の適正な管理を行う。
 - ・透水性のある護岸への改良により、湧水の流入を確保するとともに、斜面林との一体化を図る。
 - ・未買収地や平坦部で用地を確保できる箇所では、左岸側へ河道拡幅を行い、水辺スポット整備を検討する。（斜面林が隣接する区間では、水辺と斜面林の一体化を図る。）
 - ・水辺へのアクセス（階段・スロープ）を確保する。

- 【課題】
- ・崖線ゾーンでは浸水被害が発生しているため、早急な治水対策が望まれている。
 - ・災害復旧工からまだ30年しか経過していないため、現在の護岸を撤去・改修するまでの老朽化は見られず、早期の改修は困難である。
 - ・災害復旧は現状回復工事であったため、コンクリート基礎が現在の河床高相当までしかなく、河床掘削の際には根継ぎが必要である。

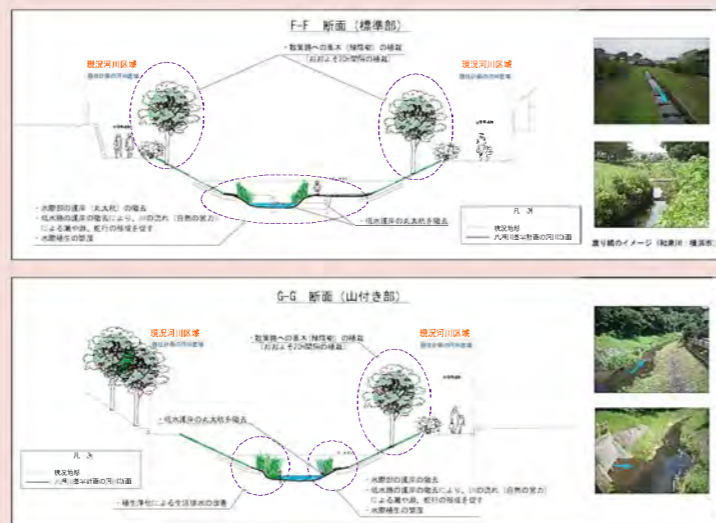


住宅ゾーン

【整備方針】
●生き物にやさしく、子どもの声にぎわうゾーン

- 【整備イメージ】
- ・水際部の護岸の撤去による低水路の蛇行化とワンドの創出、水際植生の繁茂を促す。
 - ・落差工の改良による水生生物の生息環境を改善する。
 - ・散策路への高木の植栽を行う。
 - ・親水拠点の創出。（しおだせらぎ公園と水辺との一体化、水辺を眺められるベンチなど）
 - ・生活排水の流入箇所での植生浄化を行うと共に、河川への流入防止を検討する。

- 【課題】
- ・住宅ゾーンは整備済み区間であるため、ワークショップ案による整備計画の実施のタイミングを計る必要がある。



凡例	
	八瀬川
	その他の河川
	主要施設
	学校等
	公民館等
	斜面林
	湧水地点
	史跡・寺社